



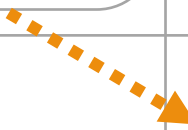
第 2 回小笠原村ゼロカーボン推進地域会議

母島：2024年10月31日

父島：2024年11月6日

令和6年度のスケジュール

	2024年												2025年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
ゼロカーボン 推進 地域会議				第一回 (7/2) ごみ処理の 現状と課題				本日 第二回 (母島 : 10/31、父島 : 11/6) ・ガイドブック素案の確認 ・次年度に向けて 等							
小笠原村で の 新しい取組	容器包装プラ 拠点回収開始 (母島) 製品プラスチック 回収開始 (父島)			コンテナ拠点回収開始 (父島) 製品プラスチック 回収開始 (母島)			「ゼロカーボンワークショップ」 お家でできる省エネ & 生ごみコンポスト (10/6)								
ごみ分別 ガイドブック の作成													完成 ●		



1.ごみ分別ガイドブック素案の確認

(資源回収の結果報告も含む)

ごみ分別ガイドブックの作成

作戦4 ごみも資源だ脱炭素 (「地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」P.38)

計画書にはCO₂排出量実質ゼロを目指すための6つの作戦があり、そのうち作戦4はごみの減量化・資源化等を目指す内容です。

⇒皆で協力してごみの削減・リサイクル率向上を目指すために、
ごみの分別方法や出し方について記載した ごみ分別ガイドブックの作成を行っています。

【第1回会議からの変更】
ごみ分別一覧を表紙に
移動して、拠点回収(資源ごみ)の解説を充実

ガイドブック(素案)の構成

令和〇年〇月版	
小笠原村 ごみの分け方・出し方 ガイドブック 父島 家庭用	ごみのゆくえ p.1
	焼却ごみ p.2
	金属類 p.3
	製品 プラスチック p.3
	粗大ごみ p.3
	飲料缶 p.4
	びん・ ペットボトル p.4
	有害・危険物 p.4
	拠点回収 p.5 6
	収集しない ごみ p.7
	ごみ 分別早見表 p.8 -11

令和〇年〇月版	
小笠原村 ごみの分け方・出し方 ガイドブック 母島 家庭用	ごみのゆくえ p.1
	焼却ごみ p.2
	金属類 p.3
	製品 プラスチック p.3
	粗大ごみ p.3
	飲料缶 p.4
	びん・ ペットボトル p.4
	有害・危険物 p.4
	拠点回収 p.5 6
	収集しない ごみ p.7
	ごみ 分別早見表 p.8 -11

父島版 / 母島版 各 A4・12頁程度
表紙 収集日一覧等

P. 1

コラム「ごみのゆくえ」

P. 2~4 (父島版)

P. 2~5 (母島版)

ステーション回収の分別・出し方

P. 5・6 (父島版)

P. 6 (母島版)

拠点回収の分別・出し方

P. 7

収集しないごみの手続き方法

P. 8~11

ごみ分別早見表

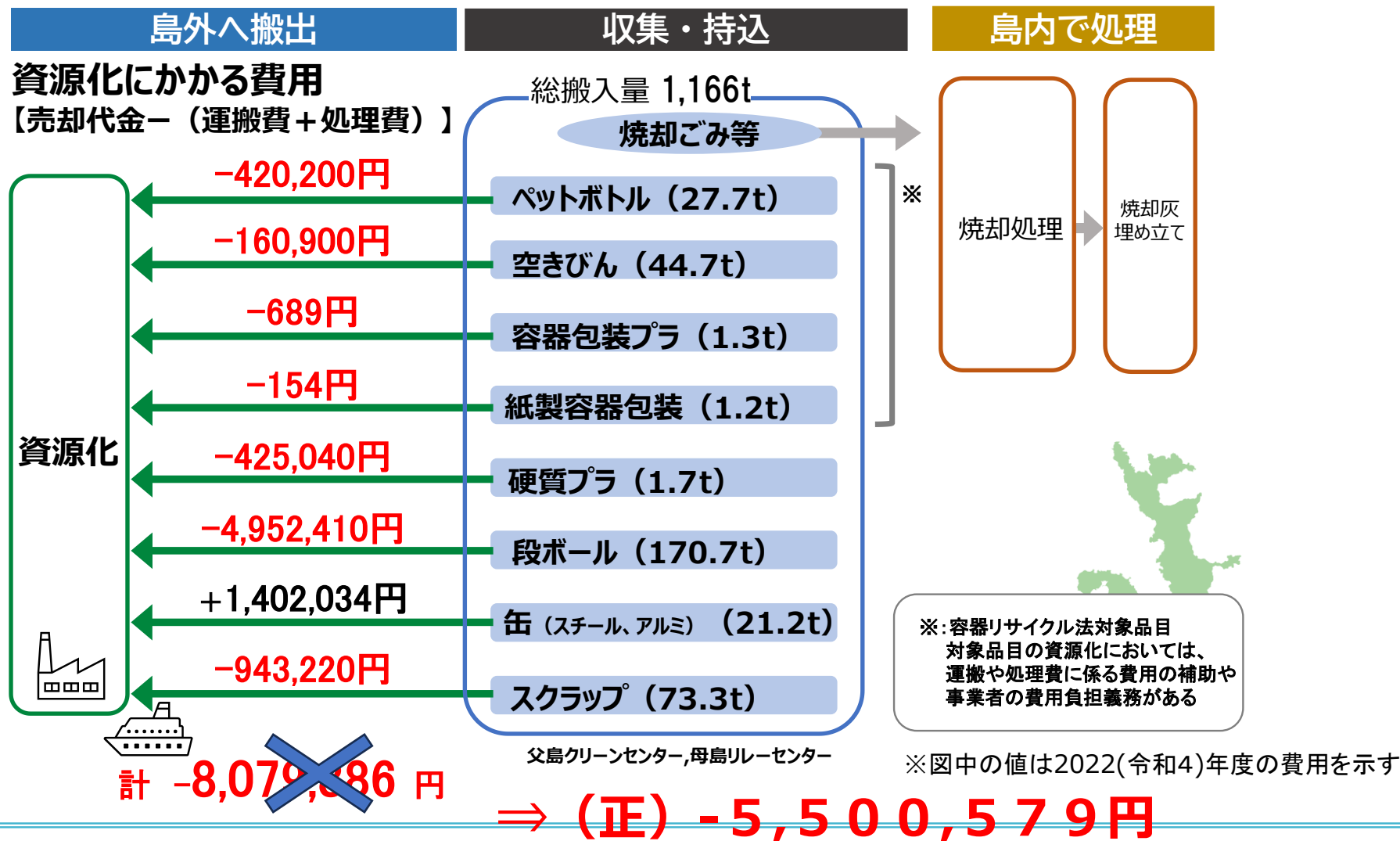
※イラストについては現在作成中、
ごみ分別早見表の記載内容については、掲載項目・内容を精査中です。

⇒記載内容について…

- 参考資料1 小笠原村ごみの分け方・出し方ガイドブック(素案)
- 参考資料2 ごみ分別早見表掲載内容案(時点版)

参照

【第1回資料の訂正】 ごみ処理・資源化にかかる費用



- リサイクルの費用全体としては赤字ですが、リサイクル法によって負担は大きく軽減されています。
- 環境への負荷軽減と人手と資金のバランスを見て、出来る限りリサイクルを推進していく必要があります。

クリーンセンター（父島）へのヒアリング結果

ガイドブックへの反映

表紙

⇒ごみ出しルールが守られていない実態が明らかに…

産業廃棄物
について記載

- 産業廃棄物 : 明らかに産業廃棄物と思われるごみがステーションに出ている

⇒廃棄物処理法の規定で、事業系ごみは事業者自らの責任により処理しなければならないが、その認識が低い。

- ごみ出し時間 : 前日の夜に出されてネズミに破られる・ちらかる

⇒夜に出すとダンボールが雨に濡れる確率や、風で散乱する確率も高まる。

2p

ごみ出し時間を
強調

- 焼却ごみ : 水切りしていない生ごみ

⇒重たくて運べないものもある。重さで袋が破れてしまう。

父島のみ2p 水切りについて強調

- 段ボール : ほとんどは束ねていない

⇒散乱しやすい。運搬に人手がかかる。

2p

束ねることを
強調

- ペットボトル : 半分以上潰されていない

⇒カゴからあふれて周囲に散らかる。転がる。カゴがすぐにいっぱいになってしまう。

4p

つぶすことを
強調

- 空き缶 : 特に事業所前・自動販売機から出されたものが洗っていない

- 缶詰の缶 : 中身が残ったままのもの、洗っていないものは半数程度

⇒ごみ回収職員が洗っている。

4p

頁の上部に
強調

- 有害物・危険物 : 主観的に危険と判断されたものが混じる

⇒割れガラスやドライヤーなどの小型家電が混ざっている。

4p

対象物のみを記載

資源リサイクル拠点回収（父島）の結果

⇒概ねは問題ないものの、24時間・誰でも利用可としたことで、出し間違いやマナーを守らない利用も一部見られる。

回収量（5-9月）
約450Kg/月

マナー・ルール

- 持ち込みした袋の処理 : 容器包装プラをレジ袋（対象外）に入れたまま捨ててある
ダイレクトメールなどがビニールや紙の封筒に入ったまま捨ててある。



洗っていないレトルト食品袋



つぶしていない紙製容器包装

対象物の間違い

- 対象外のものの持ち込み：段ボール、ペットボトル、割れガラスなど資源として回収していないものがコンテナの内に捨てられている。
- 製品プラスチック：ブルーシート、やわらかいまな板、歯ブラシなど対象外が混入
- 発泡スチロール：納豆のパック、果物のネットなど容器包装プラスチックが混入

6p NG写真
を入れる

5p 写真に例示する



対象外（ペットボトル）

資源化の注意事項

- 雑がみ：感熱紙（レシート）、圧着ハガキなど対象外が僅かでも混入すると、大量の雑がみが資源化できなくなるため注意が必要

6p

例示写真を入れる

母島でのステーション回収の状況

- ⇒父島のグリーンセンターヒアリングで判明した事項は、程度は異なるものの概ね当てはまる。
 - ⇒父島と同じように強調してガイドブックを作成

母島リサイクルステーションの結果

- ⇒第1回会議で報告したとおり、特に問題なく利用されている。

回収量	
5月	70kg
6月	35kg
7月	70kg
8月	30kg
9月	70kg
合計	275kg
	(平均55kg/月)



母島での製品プラスチック回収（7月に実施）の結果

- ⇒特に問題なく、袋に入れて出されている。
- ⇒焼却ごみに入っている目立った製品プラスチックについては、リレーセンターで分別している。

ごみ分別早見表（参考資料2）

⇒現在、表形式で作成していますが、最終的にはガイドブックの8-11頁にレイアウトして入れ込む内容です。

作成のポイント

- 一般的な自治体の資料を基に、以下のような観点で対象物を入れ替え
 - * 村で使っている人が多いもの（スノーケル・釣りなど海用品など）
 - * 時代に即したもの（ワイヤレス家電など電池が内蔵されているものなど）
 - * 間違いやすいもの（クリアファイル・インクカートリッジ＝焼却ごみ など ※資源化できない）
- ステーション回収・拠点回収により出し方が異なるため両方を示す
 - ⇒例）ペットボトルのラベルは、拠点回収ならば容器包装プラスチックだが、ステーションで出す場合は焼却ごみ
- 建設附属物（ふすま、とたんなど）、粗大ごみではなく持ち込みであること明記

2.報告事項 ゼロカーボンワークショップ°

③ゼロカーボンワークショップの開催結果報告

「ゼロカーボンワークショップ」お家でできる省エネ&生ごみコンポスト

ゼロカーボン達成に向けて、家庭や事業所で行える省エネやごみ削減行動を推進するためのワークショップを開催しました。

開催概要

- 日時 10月9日(水) 18:30~20:00
- 場所 父島：地域福祉センター大会議室 母島：オンライン配信

参加者数

会場 : 28名 (男性8名、女性19名、子1名)
オンライン : 13名

当日の流れ

第1部 家電の省エネ対策

- ・家庭の節電対策について紹介
(東京電力パワーグリッド株式会社より)
- ・省エネ家電補助、
ポータブル電源&太陽光パネル貸出紹介

当日の質疑

省エネについては、断熱性能も重要とされています。
建物の更新時期でもあるため、推進
& 宣伝していくと良いと思います。



Q: 家電の搬出費の補助はないですか？

Q: 省エネが進むと、電力会社としては困らないですか？

A: 既に海上搬出費は補助されていて、内地輸送料のみ負担いただいているところです。

A: 省エネ・再エネの社会でも役立つ会社になれるよう努力しているところです！

電気の消費量を公開することで、省エネの手ごたえが得られると良いですね。



③ゼロカーボンワークショップの開催結果報告

第2部 家庭の生ごみコンポスト

- ・コンポスト試用結果・コンポスト用土採取方法の紹介
- ・コンポスト試用方法などの紹介
(登倉里奈さんより)

コンポストモニター数

父島 15名 (+キャンセル待ち1名)

母島 1名

モニター調査

1か月目 (11月上旬)、3か月目 (1月上旬)、
5か月目 (3月上旬)



コンポスト (実物)

当日の質疑

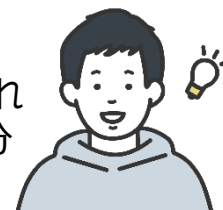
Q: 蓋や入れ物は
何でもよいですか?

A: 太陽の熱で発酵が進むので、蓋は透明のプラスチックがおすすめです。

容器に取っ手の穴が開いていますが、これも通気性の確保のため、テープなどで塞がないようにしてください。ストッキングなど通気性のよいものならふさいでも大丈夫です。

Q: たい肥化する場合、
タイミングはいつですか?

A: 土としてはいつでもOK。
生ごみを入れていたら、1か月は入れ
ないようにして、1週間に1回は水分
を入れて混ぜると良いです。



Q: 土は住宅街にある
赤土でも良いですか?

A: 赤土は微生物が少ないので適しません。洲崎の土は微生物が多く含まれているので推奨しています。母島の方が土を取る際は村に相談してください。



3.意見交換

3. 意見交換

次年度の取組について

ごみの減量・資源化の推進

論点：ごみ回収の実態・課題についてより知っていただくための現場視察会の開催方法

論点：家庭用生ごみコンポストを普及させるためにどんな工夫が必要か？

その他：ごみ削減や資源化の推進につながりそうなアイデア

省エネの推進

論点：省エネについて、より身近に感じて取組みが広がるための工夫はないか？

その他：省エネ・エネルギー使用量削減につながりそうなアイデア

構成員について

論点：構成員について、追加を検討した方がよい団体等はないか？

3. 意見交換

次年度の取組について

ごみの減量・資源化の推進

論点：ごみ回収の実態・課題についてより知っていただくための現場視察会の開催方法
父島・母島で実際に開催する場合、参加しやすい日程や方法はどうか

課題：ごみ処理の実態、資源化の課題への理解がまだ出来ていないのではないか？

→次年度： 構成員によるごみ回収視察会の開催し課題や改善点の深堀りを実施。
その後、村民への周知（村民だより等）を進めていくことを想定。

論点：家庭用生ごみコンポストを普及させるためにどんな工夫が必要か？

課題：父島では興味を持つ方が一定数いたが、母島ではわずかであった。
父島・母島いずれも普及に向けて、検討や試行を重ねる必要はないか？

→次年度： モニター結果（調査最終結果は令和6年3月）を踏まえて展開を検討
現段階で工夫が足りない点や、興味を持っていただくためのアイデアはないか？

その他：ごみ削減や資源化の推進につながりそうなアイデア

3. 意見交換

次年度の取組について

省エネの推進

論点：省エネについて、より身近に感じて取組みが広がるための工夫はないか？

課題：電気使用量は見えにくい。当たり前前に利用できるため、意識する機会が少ない。

→次年度： 母島の太陽光発電施設が運転開始（7月予定）
電力を身近に感じてもらうため、視察会を開くことを検討

その他：省エネ・エネルギー使用量削減につながりそうなアイデア

3. 意見交換

次年度の取組について

構成員について

論点：構成員について、追加を検討した方がよい団体等はないか？

【参考】①ごみの減量・資源化を推進するために

ごみの減量・資源化のための取組（地球温暖化対策実行計画（区域施策編）より）



作戦4 ごみも資源だ脱炭素

2050年の姿 みんなで協力してごみ減量・資源化

（計画書 P. 38）

図書館の本には、2023年度までにリサイクル率50%を目標にしていたけど、2021年度は31.4%で、なかなか達成できなかったって書いてあったよ。ごみを減らすことって難しいんだね。

そうだね。そこで、なんとかしようと、みんなでごみの処理や分別、回収の方法を見直したんだ。最初は面倒だと感じる人もいたけれど、ごみも分別すれば資源になることをきちんと伝えることで、今では、すべての村民が丁寧に分別・リサイクルを実践しているんだ。自然と無駄な買い物も減ったね。

今では当たり前なのに、私たちが生まれる前は違ったんだね。そういえば、この間、お父さんと一緒に近所のおばあさんのお家のごみの片付けをお手伝いしたよ。

実は、ごみの分別・回収ルールを変えたことで、一番驚いた変化は、まさにその地域での助け合いなんだ。ごみを運ぶときの助け合いなんか、子どもからお年寄りまで、村民同士の交流にもつながっているんだ。それに、今では生ごみはコンポストを使ったりして、島内で処理されているけれど、2023年頃は、父島の生ごみはまだ燃料を使って燃やしていたんだよね。

そうなんだ！生ごみって水分が多いから燃やすのが大変そうだね。

こうした取組みを通して、村の人々のモノの買い方や使い方、暮らしの価値観がどんどん変化してって、ごみも資源だという考え方は、島で暮らす人々にとって、当たり前のことになったんだ。こうやって振り返ってみると、本当に変化があったね。

◆作戦による温室効果ガス削減量見込み

取組み	温室効果ガス削減量 (tCO ₂)	具体例(参考値)		
		取組み内容	取組み数	削減量
①ごみの減量化	69.94	使い捨てプラスチックの利用を減らす	2,600人	13tCO ₂
		ホビー製品や家具等を修理や補修して長く使う	260人	57tCO ₂
②プラスチック等の資源循環	10.40	資源ごみの分別を行う	2,600人	10tCO ₂
③生ごみ回収の推進	16.20	自宅にコンポストを設置するなど、生ごみを分別して可燃ごみにしない	900世帯	16tCO ₂
④伐採木等の有効活用に関する情報収集	-	-	-	-
合計	96.54	-	-	-

ごみの減量化・資源化を推進する。
 （ごみ出しルールの明確化、リデュース推進
 容器包装プラスチックの回収強化 など）
 伐採木・枝葉などのリサイクル・活用方法について情報収集・検討を行う。

（計画書 P. 7）

【参考】②省エネを推進するために

省エネのための取組（地球温暖化対策実行計画（区域施策編）より）

作戦1 みんなで取り組む脱炭素

（計画書 P. 32）

取組み	温室効果ガス削減量 (tCO ₂)	具体例(参考値)		
		取組み内容	取組み数	削減量
①ゼロカーボンに関する情報発信(村民向け)	630.11	エアコン使用量を1時間短くする	1,500台	63tCO ₂
		エアコン温度を1度抑える	1,500台	46tCO ₂
		冷蔵庫にもものを詰め込まないなど	1,500台	71tCO ₂
		テレビを見る時間を1日1時間減らす	1,500台	52tCO ₂
		自宅や外食先での食品ロス削減	2,600人	140tCO ₂
		その他		258tCO ₂
②移動の脱炭素化の推進	339.40	通勤・通学を自転車利用にする	700人	170tCO ₂
		自動車のエコドライブを実施	1,000台	148tCO ₂
		自動車をなるべく乗り合う	100人	21tCO ₂
③ゼロカーボンに関する観光客への情報発信	12.61	観光客が冷蔵庫・テレビの使用方法などを省エネの観点から改善	100人	13tCO ₂
合計	982.12	-		

情報発信の強化・充実などによって
家庭での脱炭素型ライフスタイルへの転換を促進する。
（家庭での節電、エコドライブ、自転車利用 など）

作戦2 島ぐらし楽しく快適に脱炭素

（計画書 P. 34）

取組み	温室効果ガス削減量 (tCO ₂)	具体例(参考値)		
		取組み内容	取組み数	削減量
①省エネ機器・省エネ建築物への転換推進	1,438.69	戸建て住宅のZEH化	8件	46tCO ₂
		戸建て住宅の断熱リフォーム	8件	9tCO ₂
		LED照明の導入	1,050世帯	46tCO ₂
		省エネ性能の向上のための冷蔵庫・エアコンの買換え	1,500世帯	429tCO ₂
		業務用機器の省エネ性能向上(買換え)・LED化	全て	470tCO ₂
		その他		439tCO ₂
②公共施設における省エネ・長寿命化の推進	365.25	公共施設の電気使用量2割削減	全施設	365tCO ₂
③船舶における脱炭素化に関する情報収集	329.38	技術革新による船舶のエネルギー効率改善	全船舶	329tCO ₂
④日々の移動における脱炭素化の促進	650.97	技術革新による自動車の燃費向上	全車両	461tCO ₂
		電動バイク・電気自動車の導入	バイク100台 自動車150台	190tCO ₂
⑤公用車・村営バスのEV化	43.29	村営バスのEV化	バス3台	36tCO ₂
		公用車のEV化	4割	7tCO ₂
合計	2,827.59	-		

省エネ性能の高い機器・設備の導入を推進する。
（省エネ家電への買い替え、住宅の断熱化 など）